CSR取り組みに関する報告書

シスメックス あんしんレポート 2007

シスメックス株式会社

シスメックスは、医療、ヘルスケアの領域において、
赤ちゃんからお年寄りまで、世界の人々のかけがえのない健康と生命を支えています。
新しい価値を創造すること、その価値をお届けして人々に「安心」していただくこと――
それがシスメックスの企業としての社会的責任（CSR）であると考えています。
今回初めて、シスメックスのCSRに関する取り組みをご報告するにあたって、
人々の「安心」を何よりも大切にしている当社の姿勢をお伝えしたいという想いから、
「シスメックスあんしんレポート」と題してお届けします。

編集にあたって

編集方針

シスメックスの企業としての社会的責任（CSR）とその活動について、ステークホルダーの皆様への説明責任を果たすとともに、皆様との対話を深めることを目的として、CSRの取り組みに関する報告書「シスメックスあんしんレポート」を発行します。

編集にあたっては、当社の企業理念と事業活動、CSRに対する考え方や取り組み、ステークホルダーとの関わり、環境保全活動などについて、できるだけわかりやすく報告しています。また、当社の事業における特徴的な取り組みについては「特集」を組んで報告しています。

報告範囲

対象期間

2006年度（2006年4月1日から2007年3月31日）を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

対象組織

シスメックス株式会社ならびにグループ会社であるシスメックス国際試薬株式会社を中心に、一部それ以外のグループ会社の情報についても記載しています。

- 社会的側面：シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬株式会社と一部それ以外のグループ会社
- 環境的側面：シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬株式会社と一部それ以外のグループ会社
- 経済的側面：シスメックスグループ全体

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」
　「環境報告ガイドライン（2007年版）」
- GRI（Global Reporting Initiative）
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002／2006」

発行時期

2007年7月

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社　CSR推進室
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
TEL. 078-265-0500（代表）　FAX. 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックス株式会社とそのグループ会社に関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご承知いただきますようお願いいたします。

目次

※ QOL：クオリティ・オブ・ライフ＝生活の質

診断・治療から予防・健康維持まで――
シスメックスは、ヘルスケアにおける“検査”という領域で、
世界の人々の健康と生命を支えています。

シスメックスは、病院・検査センター・診療所など医療機関で行われる「検体検査※」に必要な検査装置・試薬・情報システムの総合サプライヤーです。開発から生産、販売、サービス＆サポートまでの一貫した体制を構築し、世界の医療機関に製品・サービスを提供することで、人々の健康と生命を支えています。また、近年ではライフサイエンスの分野へと事業領域を拡大しており、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供するために、価値の高い検査や診断技術の創出に取り組んでいます。

※ 検体検査：体内から採取した血液や尿、細胞などを調べる検査

事業内容

検体検査事業

検体検査事業では、血液中の赤血球・白血球の数や機能を分析する血球計数検査、血液が固まって止血する働きを調べる血液凝固検査、肝炎ウィルスなどの有無を調べる免疫血清検査、尿中の糖・タンパク質・血球の有無を調べる尿検査などの検体検査に必要な装置や試薬、臨床検査情報システムなどの製品とサービス＆サポートを幅広く提供しています。

血液分析装置

HS搬送システム
HSTシリーズ

多項目自動血球
分析装置
XE-2100

多項目自動血球
分析装置
XT-2000*i*

血液凝固測定装置

全自動血液凝固
測定装置
CS-2000*i*

免疫凝集測定装置

免疫凝集測定装置
PAMIA-40*i*

尿検査装置

全自動
尿中有形成分
分析装置
UF-1000*i*

ITソリューション

臨床検査
情報システム
SIS

検体検査試薬

凝固試薬

簡易検査用キット

インフルエンザ
迅速診断キット
ポクテム
インフルエンザA/B

ライフサイエンス事業

ライフサイエンス事業では、がん細胞の転移の有無を検出する遺伝子増幅検出装置など、特にがんを対象として、その予防や再発・悪化予防のための新しい診断技術の開発に取り組んでいます。

遺伝子
増幅検出装置
RD-100*i*

新規事業

科学計測分野では、セラミックス、電子材料、研磨剤、食品などの産業に、細粒子を正確に計測・評価する装置を提供しています。また、健康分野では、採血せずにヘモグロビンを測定する装置など、独自の技術を活かした新しい分野への挑戦を続けています。

科学計測分野（産業用粒子計測装置）

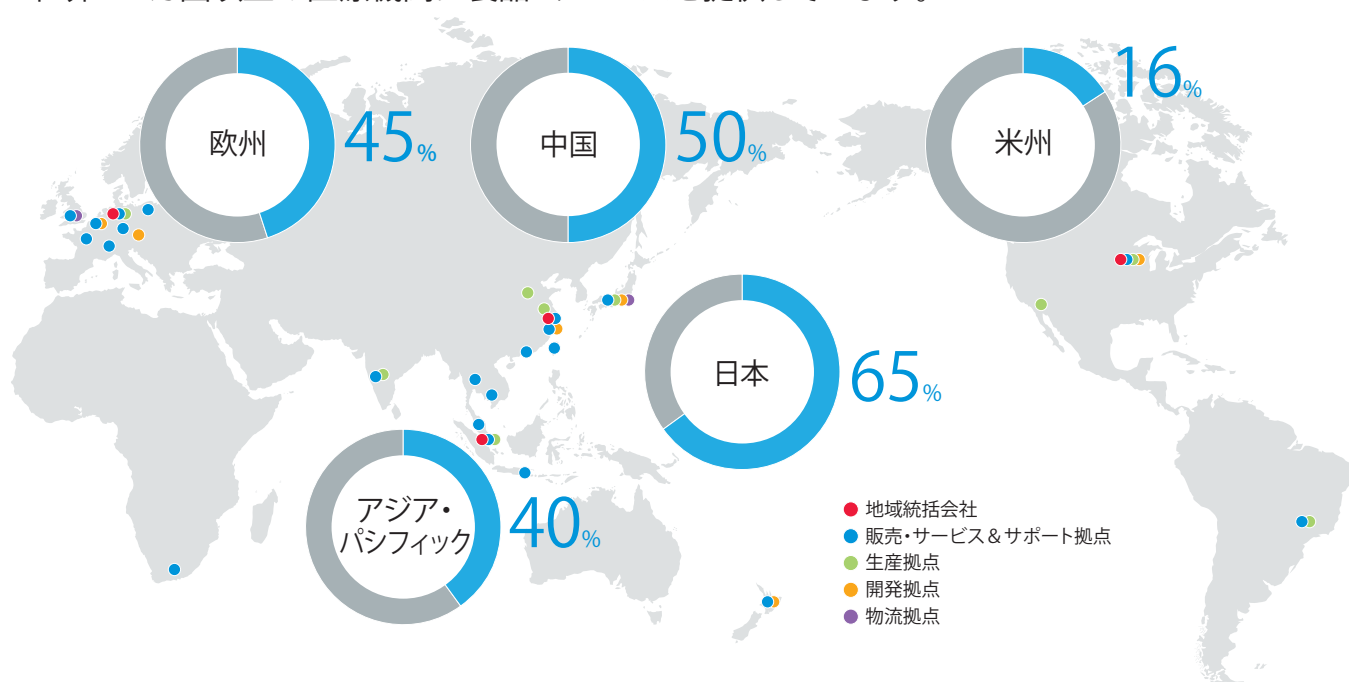
フロー式
粒子像分析装置
FPIA-3000

シースフロー
電気抵抗式
粒度分布測定装置
SD-2000

健康分野

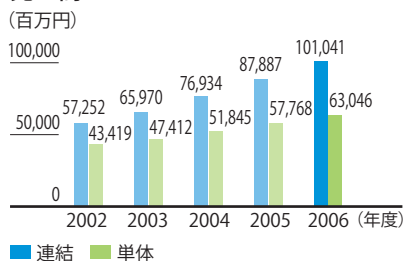
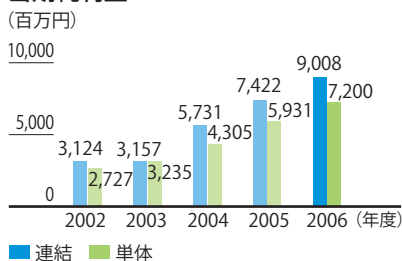
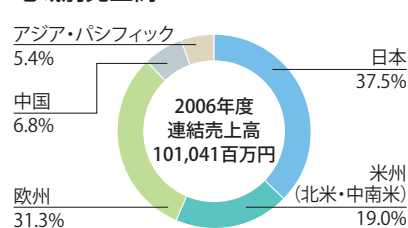
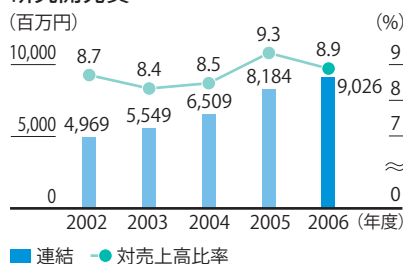
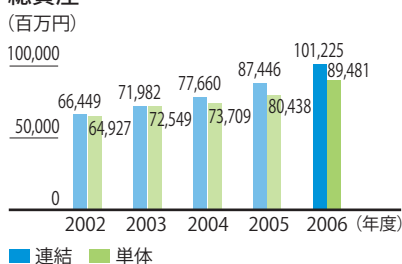
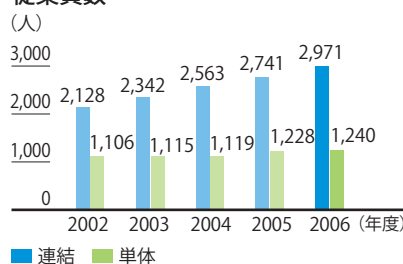
末梢血管
モニタリング装置
ASTRIM SU

グループのグローバルネットワーク

世界150カ国以上の医療機関に製品・サービスを提供しています。

注）円グラフは、血球計数分野売上高の当社シェア（当社推定）

会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION
設立	昭和43年（1968年）2月20日
資本金	85億138万1,220円
代表者	代表取締役社長　家次 恒
本社	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
事業内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
主な販売先	国公立病院、一般病院、大学、研究所、その他医療機関 ほか
輸出先	世界150カ国以上
連結対象会社	32社（国内6社、海外26社）

売上高

当期純利益

地域別売上高

研究開発費

総資産

従業員数

新しい価値を創造し、人々の健康と医療の発展に貢献すること。
ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けすること。
それがシスメックスの使命です。

健康を願う人々のニーズにお応えし、医療に関する社会的課題に取り組んでまいります

今、世界の医療環境は大きく変化しています。先進国では、健康への関心が高まる一方で、高齢化の進展、生活習慣病の増加などにともなう医療費の増大が大きな社会問題となっています。新興国では、経済発展につれて医療ニーズが急速に高まっていますが、これに対応できる体制は、まだ十分に整っているとは言えません。また、医療サービスの供給が遅れている発展途上国では、いまだに乳幼児や妊産婦の死亡率が高く、HIV／エイズやマラリアなどの伝染病が蔓延しており、これらを解決することは世界的な課題であると言えます。

シスメックスは、創業以来、検体検査分野における製品・サービスを世界の医療機関にご提供し、「検査」という領域で医療を支え続けてきました。また近年では、がんや糖尿病などの分野で、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ＝生活の質）向上に貢献できる検査や診断の研究開発に取り組んでいます。今後は、これまで培ってきたノウハウを活かしながら、ヘルスケアの幅広い分野で価値の高い検査や診断技術を創出し、ご提供することで、これまで以上に人々の健康と医療の発展に貢献し、こうした事業を通じて社会が抱える課題に取り組んでいきたいと考えています。

人々の健康と生命を育む豊かな地球環境の保全にも積極的に取り組んでまいります

地球環境の保全もまた、現代社会が抱える重要な課題です。当社は、医療機器・試薬メーカーとして、製品に含まれる有害化学物質の削減や、製品の省エネルギー化・省資源化などの環境配慮設計に積極的に取り組むとともに、地球温暖化を防止するために工場やオフィスでのCO_2排出抑制に努めるなど、開発・生産・販売・サービスの事業活動全体で地球環境との調和を追求しています。

人々の健康と生命を育む豊かな地球環境を守り、次世代に引き継ぐこと。これも、「豊かな健康社会づくり」を目指す当社が、社会のサステナブル（持続可能）な発展に貢献するために果たさなければならない責任の一つであると考えています。

新しい企業理念と行動基準を制定し、ステークホルダーの皆様への責任を明確にいたしました

事業を営むうえで、シスメックスが創業以来大切にしてきた考え方があります。それは、「お客様・取引先・従業員に安心を届ける」という経営基本方針「三つの安心」です。

2007年4月には、「安心を届ける」という基本はそのままに、経営環境の変化にあわせて再定義した、新企業理念「Sysmex Way」を制定しました。同時に、全てのステークホルダーに対して提供すべき価値を示した行動基準も併せて制定しました。この行動基準では、「三つの安心」のお客様・取引先・従業員に加えて、新たに「株主」と「社会」というステークホルダーに対しても「安心」を提供していくことを宣言しています。

シスメックスは、社会からいっそう信頼していただける存在となるために、新企業理念「Sysmex Way」と行動基準を実践し、全てのステークホルダーの皆様に対して「安心」をお届けすることで、自らの責任を果たしてまいります。

今後とも、いっそうのご理解とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

2007年7月

代表取締役社長
家次 恒

2007年4月1日、新しいグループ企業理念「Sysmex Way」と行動基準を制定しました。

シスメックスは、1968年の創業以来、創業者である中谷太郎が制定した経営基本方針「三つの安心」を基本として事業活動を行ってきました。「三つの安心」とは、当時、当社が特に重要と考えていたステークホルダーである「お客様」「取引先」「従業員」の3者に「安心を届ける」ことが経営の基本であるという考え方です。私たちは、この考えを大切に受け継ぎ、日々の活動の中で実践してきました。

しかし、現在、私たちを取り巻く経営環境は創業当時とは大きく様変わりしており、こうした変化は今後さらに加速していくと予想されます。医療の質の向上にともない、「検査」に求められるものが多様化・高度化することはもちろん、当社のステークホルダーも多様化し、社会に対する責任も増大していくと考えられます。

こうした考えに基づいて、私たちは「これからもステークホルダーの皆様から信頼していただくためにはどうあるべきか」を改めて問い直し、このたび、「三つの安心」をベースとした新たなグループ企業理念「Sysmex Way」と行動基準を制定しました。

私たちは、これからも皆様に「安心」をお届けしていきます。

Sysmex Way コンセプトブック

取締役 常務執行役員
CSR推進室担当
和歌 光雄

従業員一人ひとりが「安心」の担い手となるために

シスメックスのCSR活動とは、さまざまなステークホルダーの皆様に対して「安心」をお約束し、それを果たしていくことであると考えています。

当社は2007年に、ステークホルダーの皆様への責任ともいえる企業理念と行動基準を新たに制定しました。しかし、どんなにすばらしい理念や行動基準でも、それが実践されなければ意味がありません。従業員一人ひとりが新しい企業理念と行動基準に込められた想いや価値観をきちんと理解し、日々の業務の中で着実に実践していく必要があります。

ステークホルダーの皆様に「安心」をお届けし、良好な関係を構築していくために、従業員一人ひとりが新しい企業理念と行動基準を徹底して実行できるような企業風土を醸成することに努めてまいります。

シスメックスグループ企業理念

Sysmex Way

Mission
ヘルスケアの進化をデザインする。

Value
私たちは、独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind
私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを発揮します。

Mission：シスメックスグループが社会に存立する意義を表明したもの。
Value　：大切にすべき価値観や経営姿勢を表明したもの。
Mind　：シスメックスグループで働く一人ひとりが遵守すべき心構えを表明したもの。

行動基準

お客様に対して
常にお客様の視点で行動し、確かな品質ときめ細やかなサポートにより、お客様に安心を届けます。
常にお客様が真に求めるものが何かを追求し、お客様の期待を超える新しい価値を提案します。

従業員に対して
多様性を受け入れ、一人ひとりの人格や個性を大切にすると共に、
安心して能力が発揮できる職場環境を整えます。
自主性とチャレンジ精神を尊重し、自己実現と成長の機会、成果に応じた公正な処遇を提供します。

取引先に対して
公平・公正を基本とした幅広い取引により、取引先の皆様に安心を届けます。
相互の信頼関係と研鑽により、取引先の皆様と共に発展する企業をめざします。

株主様に対して
経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様に安心を届けます。
堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

社会に対して
法令遵守はもとより、常に高い倫理観にもとづいた事業活動を推進し、社会の全ての皆様に安心を届けます。
環境問題をはじめ地球や社会が抱える様々な問題の解決に、社会と共に取り組みます。

特集 ❶

患者さんのQOL向上を目指して

医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、シスメックスは検体検査分野で培った技術・ノウハウを活かし、世界に先駆けて「がん」や「糖尿病」などに関する全く新しい検査・診断技術の創出に取り組んでいます。患者さんの治療負担の軽減や、患者さん一人ひとりに最適な医療の提供など、QOL（クオリティ・オブ・ライフ＝生活の質）の向上に貢献する技術・製品の研究開発を進めています。

医療の質を左右する「検査」という領域で、シスメックスが取り組んできたこと

現代の医療において「検査」は極めて重要な役割を担っています。血液や尿、細胞などの検査から得られる各種の情報は、患者さんの健康状態を知るためだけでなく、病気の場合、治療方針を決定する根拠として重要であり、さらに治療・投薬後のモニタリングにも不可欠です。「検査」が医療の質を左右すると言っても過言ではないでしょう。

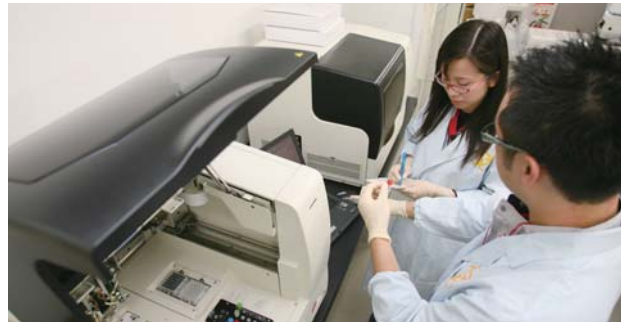
シスメックスは、1963年、日本で初めて自動血球計数装置を実用化して以来、血球計数検査をはじめ、免疫血清検査、生化学検査、尿・便検査といった「検体検査」の分野において、数々のイノベーションを成し遂げてきました。私たちが世に送り出してきた技術・製品の中には、日本初や世界初のものも少なくありません。独創性に富んだ私たちの技術力と充実したサポート力は、世界の医療機関から信頼、期待され、「検体検査のリーディングカンパニー」として高く評価されています。

培った技術・ノウハウを活かし、がん・糖尿病などのライフサイエンス分野に事業を拡大

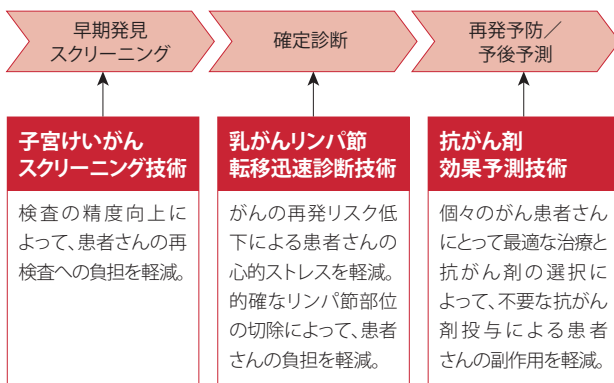
日本をはじめ先進国では、高齢化や医療費の高騰を背景に、これまでの治療重視の医療から予防医療への転換が進んでいます。また、単に寿命を延ばすためだけでなく、健やかな人生を長く続ける「健康長寿」のための医療を実現することで、国民のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高めていくことを目指す制度改革が各国で進められています。

こうした改革の鍵を握るのは、やはり「検査」です。価値の高い検査に基づいた診断は、病気の早期発見や早期治療、速やかな治療方針の決定や予後の予測を可能にします。「早期発見スクリーニング」「確定診断」「再発予防／予後予測」といった各ステージで、患者さんのQOLを高めるとともに、医療費の低減にも大きく貢献します。

シスメックスは今、患者さんのQOL向上に関わりの深いライフサイエンス分野に事業を拡大しています。患者さんの治療にともなう負担を少しでも軽減し、一人ひとりに最適な医

ライフサイエンス分野の研究開発

乳がんのリンパ節転移を迅速に検出する装置「RD-100*i*」

療を提供するために、検体検査分野で培った技術とノウハウを活かし、さらに高度な診断・検査の研究開発に取り組んでいます。

当社ライフサイエンスの主な技術（がん関連）

乳がんの再発リスクの低下と、患者さんに優しい医療を目指して

30〜50歳代の日本人女性のがんによる死亡原因として最も多いのが乳がんです。また、日本人女性の30人に1人が乳がんになるとも言われています。

腋の下に20〜30個あるリンパ節は、乳がんの最も転移しやすい場所です。現在の早期乳がんの手術の際に行われる検査では、精度に限界があり、5〜20%の確率でがん転移の見落としがあると言われています。そのため、手術では転移による再発を予防するために、“転移の疑いのある”リンパ節まで広範囲に切除することが一般的となっています。この検査において、リンパ節へのがん転移の有無が正確に、しかも原病巣を切除する手術中にわかれば、転移のあるリンパ節だけを切除することが可能になり、さらに、1度の手術ですむようになります。

シスメックスは、リンパ節のがん転移を発見する装置「RD-100*i*」および専用試薬を開発し、2006年度に欧州で市場に導入しました。この装置は、乳がん除去手術時に、従来以上に高精度かつ短時間で転移の有無を診断できるため、がんの再発リスク低下に大きく貢献することができ、さらに、切除に関わる患者さんの負担低減やストレス軽減も期待できます。

日本でも、一日でも早くRD-100*i*を市場に導入し、乳がんの再発リスク低下と患者さんのQOL向上に貢献できるよう、現在、厚生労働省の認可に向けた臨床試験を実施しています。また、医療関係者向けに、学会でセミナーを開催したり、乳がん検査の解説冊子を作成・配付するなど、早期の市場導入を目指して認知度の向上にも取り組んでいます。

乳がん検査の解説冊子

Column

乳がんの早期発見の大切さを伝える「ピンクリボン運動」にも協力しています

ピンクリボン運動は、市民団体、企業、行政などが乳がんの早期発見の重要性を啓発する世界的な運動です。1980年代にアメリカで生まれ、乳がん検診率の向上と死亡率低下に貢献したと言われています。日本でもさまざまな団体が、イベントを開催したり、ピンクリボンをあしらった商品を販売し、その売り上げの一部を寄付するなどの活動を展開しています。

シスメックスは2004年からこの運動に参加し、東京や神戸でのシンポジウム開催に協力しています。

特集❷

診断・治療を支える「検査」の責任

シスメックスが目指しているのは、お客様に「製品」をご提供することではありません。「正しい検査結果」をご提供することです。診断・治療を支える「検査」を確かなものとするために、シスメックスは、製品開発から生産、販売、サービス＆サポートに至る全てのプロセスで品質向上に徹底して取り組み、検査の高い信頼性を確保し、お客様に“安心”をお届けしています。

事業活動の全てのプロセスで、「検査」の信頼性を確保するための取り組みを徹底

製品開発で	生産で	販売で	サービス＆サポートで
測定データの精度と製品の安全性を向上	工場全体で品質を厳格に管理	正しい操作方法を直接説明し、最新の学術情報も提供	お客様の装置メンテナンスと精度管理を支援

高機能・高信頼性・小型化・微量血をコンセプトに多項目自動血球分析装置 XSシリーズを開発、2006年発売

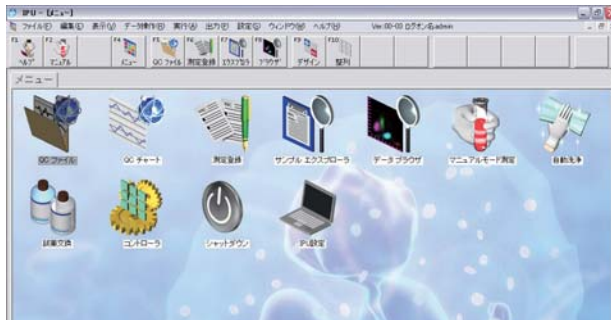
多項目自動血球分析装置「XS-1000*i*」

- **中小規模の医療機関でも充実した検査が可能に**

  白血病の兆候である幼若細胞の検出など、これまで大規模病院や検査センター向けの大型装置でのみ可能であった高度な検査をコンパクトサイズで実現。中小規模の病院でも、そして診療所でも、充実した血液検査を可能にしました。

- **微量血対応で患者さんの採血負担を軽減**

  測定に必要な血液量の微量化に成功。検査のために採血する血液の量が少量ですむため、子供さんやお年寄りの患者さんの負担を軽減します。

製品開発（テクノセンター）

わかりやすいアイコンを使用したXS-1000*i*ディスプレイ画面

製品開発で

高い信頼性の確保が製品開発の使命

診断・治療のために用いられる「検査」は、患者さんの健康と生命を支えています。そのため、検査装置の信頼性は、いくら高くても高すぎるということはありません。

自動血球分析装置XSシリーズは、わずか20マイクロリットル※の血液で、赤血球や白血球などの数や形態、異常血球の検出など24項目の情報を、測定開始からわずか1分で分析します。

しかし、どれほど高機能な製品でも、測定したデータにばらつきがあれば、お客様に安心して使っていただくことはできません。重要なのは測定データの精度なのです。

シスメックスは、測定データの精度を高め、信頼性を確保することが製品開発の使命と考え、技術革新を積み重ね、また開発プロセスにおいてさまざまな仕組みを構築しています。

※ 1マイクロリットルは1,000分の1ミリリットル。

リスク評価を実施することで、測定データの精度、使用時の安全性を向上

シスメックスは、2005年から、製品の信頼性をより高めるために、開発段階でのリスク評価を導入しました。測定データの精度向上はもちろん、お客様が装置を使用する際の事故や感染など、想定できるあらゆる場面でのリスクを把握し低減することで、製品の安全性の向上を図っています。

XSシリーズの開発でもリスク評価を繰り返し実施し、装置の信頼性を確保しました。

主な評価リスクの項目

精度変動リスク／誤動作リスク／接触事故リスク／
感染リスク／環境汚染リスク／
放出エネルギー・放射線などによるリスク
（騒音・振動・発熱・光・電流・電磁界など）／
人的要因リスク（誤解釈・誤認・誤入力など）

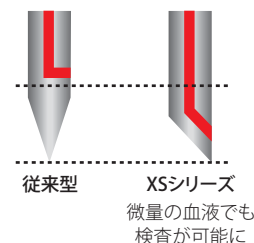
お客様の視点に立った製品開発に向けて、ご意見・ご要望を積極的に収集

シスメックスは、確かな品質をお届けするという考えのもと、「お客様の視点」に立って製品を開発しています。営業担当者だけでなく、開発技術者も頻繁にお客様のもとに足を運び、ご意見・ご要望に耳を傾け、これらを積極的に採り入れています。

XSシリーズの開発にあたっては、ヨーロッパなどでお客様の声を徹底的に調査しました。なかでも、検査技師が使用する言語は英語だけでは十分でないという意見に着目し、ディスプレイの表示言語を10カ国語から選択できるようにしました。また、微量血での検査を可能にするために、採血管の底まで血液をムダなく吸引できる先端部（右図）の開発もお客様の要望に応えたものです。

さらに、ディスプレイに表示されるアイコンについては、日本人だけでなく、どの国のユーザーにもわかるユニバーサルデザインを追求しました。

従来型とXSシリーズの血液吸引の先端部

微量の血液でも検査が可能に

Comment

微量血検査と測定データの精度を両立させました

診断システム開発本部
長井 孝明

血液検査では、測定する血液の量が少ないとデータの精度が低下する恐れがありますが、XSシリーズでは、それを克服し、子供さんやお年寄りなど採血量の少ない患者さんの検査の課題を解決できました。

さらに、装置内の血液希釈方法を改良し、微量な血液でも大型検査装置とほぼ同じ項目情報を測定することに成功しました。

加古川工場のXSシリーズ組み立てセル生産ライン

ムービングマニュアルによる組み立て作業

生産で

世界中の法規制を遵守し高品質な製品を
つくるために、工場全体で高い品質レベルを維持

シスメックスの検査装置は世界150カ国以上に供給されています。その製品の全てを生産している加古川工場では、日本の薬事法、米国のFDA（食品医薬品局）関連規制、欧州の医療機器指令、カナダの医療機器法など、医療機器に関する世界各国の厳しい法規制を遵守し、高品質で、お客様に満足いただける製品を安定して供給するために、部品検査・組み立て・製品検査・出荷など全ての生産工程において品質の確保に努めています。お客様から「この工場から出荷される製品なら安心できる」と言っていただけるように、従業員全員が一丸となって、品質の維持・向上に取り組んでいます。

品質の決め手は「人」——
品質への意識を高めるために教育を徹底

加古川工場では、XSシリーズの生産において、最初から最後まで一人の従業員が組み立てる「セル生産方式」を採用しており、従業員の意識と技能が品質の維持・向上に大きな役割を果たしています。品質の決め手は「人」であると考え、生産現場の人材育成を推進しています。

従業員に対して、「当社製品が果たす役割の重要性」や、「信頼性の高い測定データをお客様にご提供する」という製品品質に対する意識を徹底するとともに、全ての生産工程において、品質についての技能訓練、知識習得教育などを実施しています。2007年度からは、これまで以上に高い意識を持って取り組むことができるように技能ライセンス制度の導入を予定しています。

また、従業員が自主的に取り組む品質活動も活発です。生産ラインごとに結成する「改善グループ」が定期的に会合を持ち、製造工程や治具の改善を提案するなどの活動を行っています。このような活動が実を結び、XSシリーズの生産工程において、難易度の高い測定部ユニットの品質を向上させることができました。

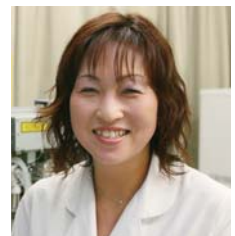
人を支援するコンピュータシステムの導入

加古川工場では、XSシリーズの生産において、組み立て方法がディスプレイ上に三次元の動画でわかりやすく表示されるマニュアル「ムービングマニュアル」を用いた組み立てを試行しています。これは、「セル生産方式」において、生産工程の質を確保する有効なツールであり、さらに、当社の生産活動支援システム「Quick 21」と連動させることで、厳密な工程の進捗管理や工数管理に役立てることもできます。

加古川工場では、このようなコンピュータシステムを積極的に導入し、「人」をさまざまなかたちで支援することで、製品の品質向上を図っています。

Comment

現場からの改善提案で、XSシリーズの測定部ユニットの検査後の再調整をゼロにしました

生産本部
後藤 由美

XSシリーズの生産工程には、難易度の高い微調整作業が必要な「測定部ユニット」取り付け工程があります。従来は、XS本体への取り付け完了後に、運搬などが原因で調整のずれが起こり、検査後に再調整が必要となるケースが発生していました。

この問題を改善するために私たちの改善グループは、XS本体に搭載した後に微調整作業ができるように工程の順序の入れ替えと、工場内レイアウトの変更、調整治具の改善を提案しました。これが採用され、それまで発生していた検査後の再調整をゼロにすることができました。

ユニット微調整作業

お客様や代理店様向けに最新の学術情報を提供

精度管理支援の中心となる「精度管理室」

販売で

正しい操作方法を直接担当者が説明、また最新の学術情報を随時提供

正しい測定結果を得るには、お客様に装置を正しく操作していただく必要があります。シスメックスでは、納品時の設置・調整作業と操作方法の説明は必ず当社の営業担当者が訪問して行っています。その後も、随時お客様を訪問し、装置のメンテナンス方法や検査に関連する学術情報などをきめ細かく提供しています。

支店や営業所で新製品の展示会を開催する際には、併せて各検査分野の専門家による講演会を行うなど、お客様や代理店の皆様に役立つ最新の学術情報の発信にも努めています。また、営業担当者がお客様から伺ったご意見・ご要望については、各関係部門に伝え、製品の開発・改良などに活かしています。

XSシリーズは、主に中小規模の病院を対象とした検査装置です。このような病院では、大規模な病院とは異なり、一人の検査技師や看護師の方がさまざまな分野の検査を一手に引き受けていることも少なくなく、XSシリーズを操作するのは血液検査の専門技師であるとは限りません。このような場合、XSシリーズに関する情報提供について、血液検査の基本も含めわかりやすくお伝えするよう努めています。

Comment

迅速な対応と情報提供でお客様満足を追求しています

西日本営業本部 大阪支店
和田 圭太

私たち営業担当者は、さまざまな勉強会を頻繁に開催しています。薬事法やコンプライアンス、コミュニケーション方法はもちろん、血液学など臨床検査の専門知識や技術の習得・共有にも努めています。

お客様からの問い合わせに対して、窓口として迅速に対応するだけでなく、安心してご使用いただくための有益な情報をご提供することが、お客様の満足につながると考えています。

サービス＆サポートで

検査装置の信頼性を確保するために、お客様の精度管理をトータルに支援

検査装置の信頼性を確保するためには、毎日の「精度管理」によるメンテナンスが欠かせません。精度管理とは、「コントロール」と呼ばれる専用の試料を測定し、その結果を別の日の測定結果や、他施設での測定結果と比較することによって装置の精度を検証する手続きのことです。

シスメックスは、コントロールの提供や、他施設の測定結果との比較、お客様の装置と当社コンピュータをネットワークで結んで測定結果を自動分析・報告するサービスなど、お客様の精度管理をトータルに支援しています。

しかし、中には、規模が小さい、人手が不足している、予算が限られているなどの理由で精度管理を実施することが難しいお客様もいらっしゃいます。このようなお客様のために、当社では、必要に応じてサービス員がコントロールを持参し、お客様に代わって精度管理のさまざまな作業を代行するサービスを提供しています。

シスメックスは、お客様が日々正しい検査結果を得られるように、きめ細やかなサービス&サポートを推進しています。

Comment

メンテナンススキルの標準化を目指しています

カスタマーサポート本部
川島 尚和

現在、シスメックスでは、世界中のお客様に高いレベルのメンテナンスをご提供できるよう、各国サービス員のメンテナンススキルの標準化に取り組んでいます。

2006年度は、まず、サービス員向けのXSシリーズ用研修ツールを、日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国、シンガポールで一部共通化することができました。今後も、言語、慣習、多様性を考慮しながらスキルの標準化を推進していきます。

コーポレート・
ガバナンス

社会から、より信頼される企業であるために

シスメックスは、社会から、より信頼され、期待される企業を目指し、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。経営の透明性・健全性を向上させるために、委員会の設置などの体制整備を進めるとともに、コンプライアンスを重視し、「高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動」を追求しています。

コーポレート・ガバナンス体制

経営の健全性と透明性を高めるために

シスメックスは、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つとして位置づけています。経営の健全性と透明性を高め、経営スピードと経営効率を向上させることが、企業価値の最大化につながると考えています。

取締役会は取締役9名で構成し、経営に関する重要事項を審議しています。また、当社は監査役制度を採用しており、監査役会は社外監査役2名を含む4名で構成し、客観的な立場から取締役の職務遂行を監視しています。

2005年4月からは執行役員制度を導入し、業務執行の意思決定スピードをいっそう高め、事業環境の変化に迅速に対応できるよう、体制を整備しました。同時に、委員会設置会社と同様の役割を持つ指名委員会と報酬委員会も設置しました。

さらに、内部者取引管理規程や、環境管理規程、個人情報保護規程、コンプライアンス規程、臨床研究開発に関する倫理規程など、ステークホルダーの立場を尊重するさまざまな規程を制定し、必要に応じて委員会を設置しています。

コーポレート・ガバナンス体制（2007年4月現在）

情報開示

独自の開示基準を設定し、より積極的に開示

シスメックスは、各種の情報を開示するにあたって、証券取引に関する法令や証券取引所の定める適時開示規則などを遵守しています。さらに情報開示規程を制定し、当社独自の基準を設定、適時開示規則に該当しない情報についても積極的に開示しています。

また、「情報開示委員会」を設置し、開示する情報について十分審議することで、情報開示の網羅性・適時性・公正性の維持に努めています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント委員会を設置

シスメックスは、企業リスクに関する全社管理体制を整備するため、2007年4月に、グループ会社を含めたリスクを統合的に管理する「リスクマネジメント委員会」を設置しました。委員会では、重要リスクの選定や対応策の整備に向けた取り組みを進めています。

安全保障貿易管理

製品などの貿易管理については、「安全保障貿易管理委員会」を設置し、当社の技術や製品が海外で不正利用されることのないよう、輸出先や使用用途の確認などの厳重な管理を継続して行っています。

コンプライアンス

コンプライアンスコードで基本ルールを設定

シスメックスは、2006年4月、従来の「コンプライアンス行動規範」を改め、「コンプライアンスコード」を制定しました。この中で、シスメックスにおけるコンプライアンスを、「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」であると定義しています。この「高い倫理観にもとづく事業活動」とは、社会規範や社会常識、ならびに法令を超える自主基準を自ら設定し、これらを遵守することをいいます。コンプライアンスコードでは、この定義に基づいて、特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめ、従業員に周知徹底しています。

また、2007年4月には、米州、欧州、中国、アジア・パシフィックの海外地域統括会社においても、コンプライアンスコードを適用しました。

冊子「コンプライアンスコード」と「コンプライアンスガイドブック」

従業員への周知徹底のために

2006年度には、コンプライアンスコードを役員・従業員に周知徹底するために、わかりやすい解説と身近な事例をQ&A形式で掲載したガイドブックを作成しました。また、イントラネット内に、親しみやすいデザインのコンプライアンスポータルサイトを開設しました。

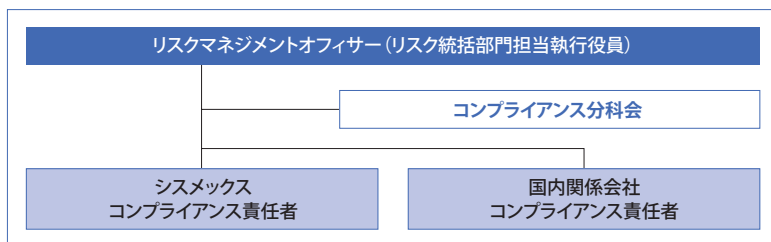
さらに、国内グループ従業員約2,000名全員を対象としたコンプライアンス導入教育を実施しました。今後も引き続きコンプライアンスの浸透を図っていきます。

親しみやすいデザインのコンプライアンスポータルサイト

コンプライアンス推進体制

シスメックスでは、2006年4月、コンプライアンスコードの制定と同時に、グループコンプライアンス委員会を新設し、グループ全体でコンプライアンスを推進する体制を整備しました。当社にグループ全体のコンプライアンスを統括するコンプライアンスオフィサーを設置するとともに、国内グループ各社にコンプライアンス責任者を設置しました。

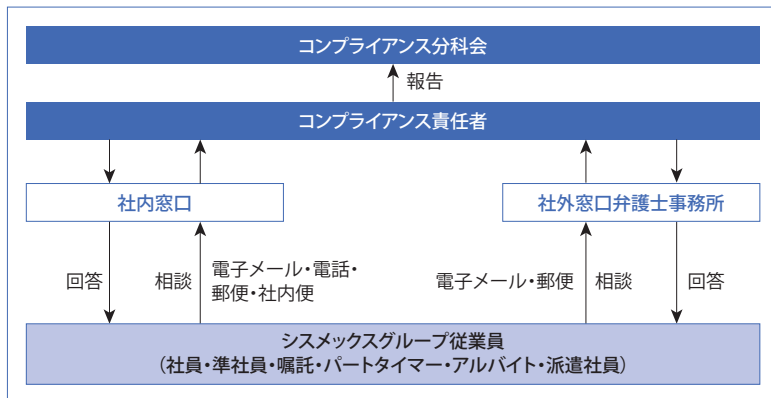
2007年4月には、リスクマネジメント体制との統合を図るため、コンプライアンスオフィサーをリスクマネジメントオフィサーとして、また、グループコンプライアンス委員会をコンプライアンス分科会として役割を再整備しました。

コンプライアンス推進体制（2007年4月現在）

内部通報制度をさらに利用しやすくリニューアル

2006年4月に、従来の内部通報制度を、より気軽に利用できるように「カンパニュラライン」としてリニューアルしました。

通報手段として、従来の郵便、社内便、電話に加えて電子メールも利用できるようにしました。また、相談者の不安を取り除くために、受付担当者や相談の処理方法を公開し、さらに、新たに女性の受付担当者を設置して、男性には話しづらい問題も相談できるよう工夫しました。

カンパニュラの花言葉は「誠実」と「感謝」

カンパニュララインの仕組み

お客様に「安心」をお届けするために

シスメックスは、「品質とは顧客満足である」と考えています。お客様に「安心」をお届けし、満足していただくために、提供する製品の品質保証はもとより、全ての業務の質を向上させるために、さまざまな取り組みを推進しています。

品質マネジメントシステム

品質とは顧客満足である

シスメックスは、新企業理念の制定にあわせて2007年5月に新しい品質方針を制定しました。従来の考え方を一歩進めて、「品質とは顧客満足である」という認識を明文化しました。

現在、お客様満足度のいっそうの向上に向けて、グループをあげて品質マネジメントシステムの継続的な改善に取り組んでいます。

品質方針

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. お客様のニーズを把握し、お客様の期待を超える製品やソリューションを提供します。
2. 品質とは顧客満足であるという認識のもと、お客様の立場に立って行動します。
3. お客様に安心していただくために、徹底した品質保証とあらゆる業務における質の向上に努めます。
4. 独創的な新しい技術とナレッジによって、新たな価値を創り続けます。
5. 使用される国または地域の法令、規格等を遵守し、安全な製品を提供します。
6. 品質マネジメントシステムの有効性を維持するとともに継続的な改善を図ります。
7. 品質方針から品質目標を設定し、目標達成に向けて計画的に取り組みます。

全事業所で品質ISO認証を取得

シスメックスは、グループ全体での品質マネジメントシステムの構築に向け、その統括部門として品質保証部門を設置し、品質ISO9001／ISO13485※の認証取得を推進しています。

1998年に、開発や生産、サービス&サポート機能に関して品質マネジメントシステムを整備し、ISO9001／ISO13485の認証を取得しました。

その後、製品・サービスの品質だけでなく業務の質向上を目指して、本社スタッフ部門や支店・営業所への認証範囲の拡大に取り組み、2006年度には、国内の全事業所でISO9001／ISO13485の認証取得を完了しました。

※ ISO13485：ISO9001を基本として医療機器に関する要求事項を加えた品質規格。

一人ひとりが品質マネジメントの担い手

シスメックスでは、品質管理のレベルアップを図るためには、従業員の品質マネジメントシステムへの理解を継続的に深め、一人ひとりの品質に対する意識を絶えず向上させていく必要があると考えています。

こうした考え方に基づいて、2006年度には、従来の新入社員研修や階層別研修での品質教育に加えて、全従業員を対象に、品質マニュアルについての説明会を開催しました。

内部品質監査については、各部門から選任された内部品質監査員が、部門から独立した委員会を組織して、品質マネジメントシステムの運用状況を定期的にチェックしています。また、監査の実効性を高めるために、毎年、監査員のスキル向上を目指した社内セミナーを開催しています。

グローバルな品質向上への取り組み

シスメックスでは、グループ全体での品質向上への取り組みを推進するために、海外各地域の現地法人から品質保証部門のマネージャーを集めて、年に1回グローバルマネージャーミーティングを開催しています。

2006年度は、各社の活動状況や品質情報の共有手段、苦情処理の方法などについて意見を交換しました。

グローバルマネージャーミーティング

製品の安全性確保

検査にたずさわる方々の安全を守る

シスメックスでは、製品のユーザーである検査技師や看護師の方々の安全を守るために、薬事法の遵守はもとより、それ以上に厳しい社内規格に則って製品を設計・開発しています。

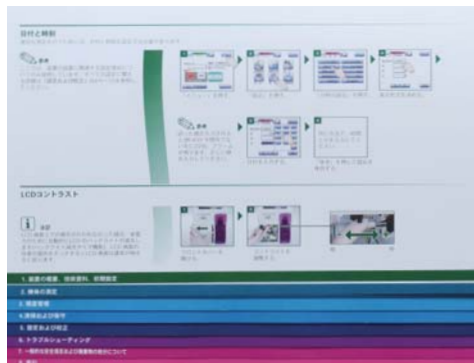
臨床検査装置では、作業時にけがをした場合、その傷口から血液感染する恐れがあります。そこで、検査装置の内部の部品については、傷の原因になりうる尖った部分（エッジ）をなくす、採血管に穴を開けるピアサ針の交換時には針先が自動格納された状態になるようにするなど、製品の安全を確保するためのさまざまな工夫をしています。

わかりやすい取扱説明書づくり

「お客様の視点」に立った説明書づくり

2006年度、シスメックスは「お客様の視点から見た、わかりやすい取扱説明書」の作成に取り組みました。作成にあたっては、製品のユーザーである検査技師の方々にご協力いただきました。説明書を読みながら装置を操作し、そこで感じた問題点などを指摘していただきました。

新しい説明書では、それらの問題点を解決するとともに、従来の単色印刷からカラー印刷へ、文字中心から写真・イラスト中心へと変更し、従来以上に見やすく理解しやすいものへと改善することに努めました。

その結果、自動血球計数装置「pocH-100*i*」の取扱説明書は、2006年度の「日本マニュアルコンテスト（テクニカルコミュニケーター協会主催）」で、産業用機器部門「部門優良賞」を受賞しました。

写真・イラスト中心の「pocH-100*i*」の取扱説明書

お客様サポート

24時間365日体制でお問い合わせに対応

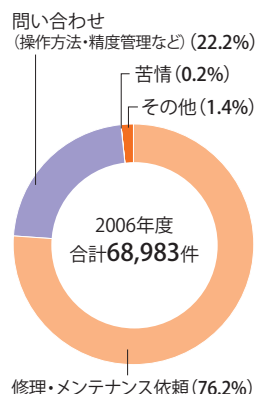
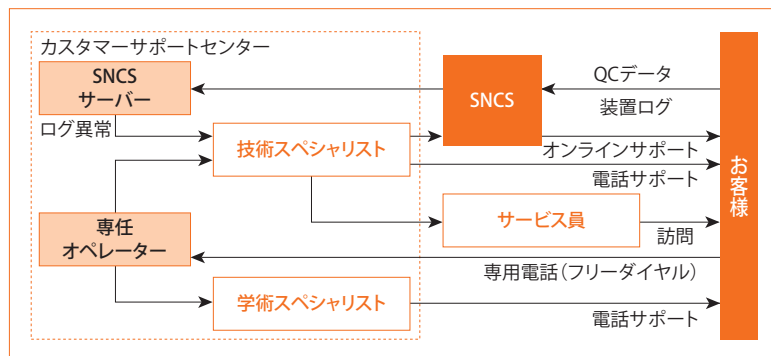
シスメックスは、製品をご購入いただいた後のサポートを「お客様にさらなる満足を提供し、ご信頼いただくための重要な活動」と考えています。

こうした考え方に基づいて、シスメックスの「カスタマーサポートセンター」は、日本全国のお客様からの電話でのお問い合わせに24時間365日体制で対応しています（別途メンテナンス契約が必要）。

同センターでは、トラブルに迅速に回答できるように、お客様が使用されている検査装置の過去のメンテナンス履歴を蓄積し、装置の状態を常時把握しています。さらに、国内19カ所の事業所のサービス員との連携を円滑にするために、社内イントラネットを用いて問い合わせ内容を共有しています。

さらに、製品についてのお問い合わせだけでなく、検査結果や分析結果などに関するお問い合わせにも回答できるように、学術的な知識を持ったスペシャリストが対応にあたっています。

カスタマーサポートセンター

カスタマーサポートセンターへのお問い合わせ内容内訳

お客様サポート体制

製品を監視するシステムでトラブルを回避

シスメックスの一部の製品では、ネットワークシステム「SNCS（Sysmex Network Communication Systems）」のサービスを提供しています。これは、お客様先の検査装置とカスタマーサポートセンターを専用回線で結び、装置を常時監視するものです。お問い合わせがあった時点での装置の状態をリアルタイムに把握できるため、素早く回答できます。

また、装置を常時監視している同システムを使えば、トラブルの予兆を察知することも可能です。2006年度は毎月平均670件のトラブル発生の可能性を察知してお客様にご報告し、トラブルを回避しました。

お客様へのトレーニングサービス

シスメックス製品の性能を十分に引き出していただくためには、お客様に、操作方法やメンテナンス方法を十分にご理解いただき、正しく使用していただく必要があると考えています。

そこでシスメックスは、世界各地のお客様に対し、取扱説明書などでは十分に伝えることが難しいノウハウや知識を提供するサービスを用意しています。また、当社のカスタマーサポート拠点に専用のトレーニングルームを設置して、「オペレーター」「サービス」「学術」の3コースで、お客様が納得されるまでトレーニングを受けていただいています。

世界各地のお客様にトレーニングをご提供

アジア学術セミナー開催地と開催年

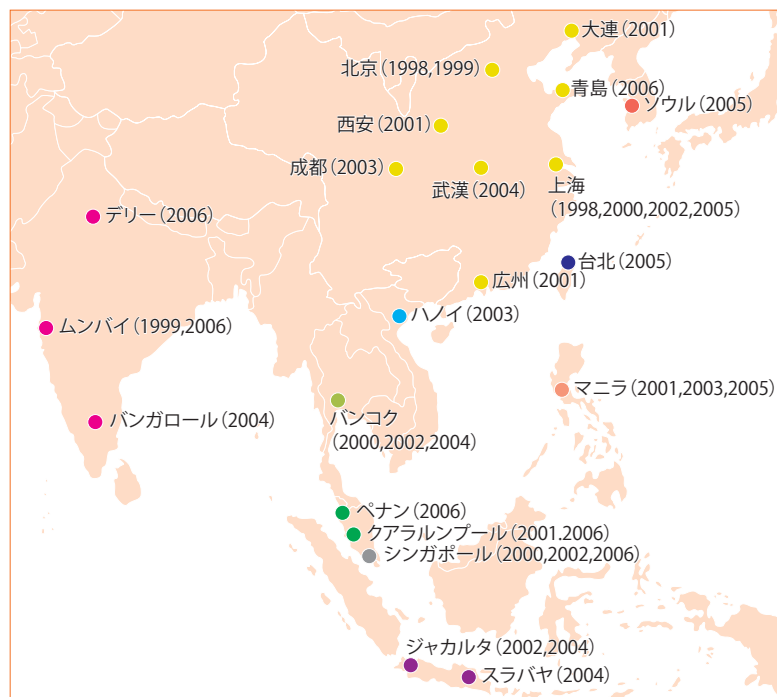
お客様とのコミュニケーション

衛星中継で学術情報を世界に発信

シスメックスは、検体検査のリーディングカンパニーとして、検査に関する学術情報を積極的に発信しています。

シスメックスは、1978年以来、血液学分野の第一線でご活躍の先生方を講師とする「シスメックス血液学セミナー」を年1回開催し、臨床医療にたずさわる医師や臨床検査技師の方々へ最新の学術情報を提供しています。

2000年からは衛星中継を国内向けに開始し、遠く離れた会場の参加者との意見交換が可能になりました。また、2005年からは国内だけでなく海外都市にも衛星中継を開始し、海外の会場からも質疑ができるようになりました。2006年度のセミナーは、「免疫能から血液疾患病態を探る」をテーマに、シドニーを含む6都市の会場に同時中継し、合計803名にご参加いただきました。

また、「アジア学術セミナー」も定期的に開

催しており、これまでに中国、東南アジア、インドなどで延べ30回開催しています。

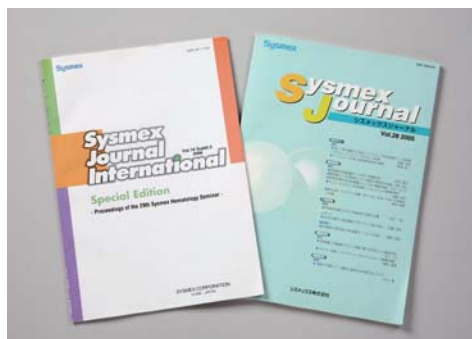
2006年度学術セミナー（シドニー会場）

シスメックス血液学セミナーの演題

2004年度	「造血幹細胞疾患[MDS・AA・PNH]の最新知見をめぐって」
2005年度	「血液疾患の分子生物学的基礎 ——どこまで明らかになったか——」
2006年度	「免疫能から血液疾患病態を探る」 1. 樹状細胞の基礎免疫学と免疫療法への応用 2. 自己免疫疾患の病態と自己反応性T細胞 3. 白血病に対する細胞免疫療法 4. 造血幹細胞移植における免疫反応 ——移植片対宿主病——

学術情報誌の発行

シスメックスは1978年以来、医学検査に関する学術情報誌「シスメックスジャーナル」や「シスメックスジャーナルインターナショナル」を発行し、医師や検査技師の方々に最新の情報を提供しています。

また、社内外で収集、蓄積したデータをもとに作成した学術症例集や各種データ集などを発行し、お客様の検査・診断をサポートしています。

「シスメックスジャーナル」と「シスメックスジャーナルインターナショナル」

製品不具合への対応とお客様の声を製品に活かす仕組み

シスメックス製品の品質に関するお問い合わせや苦情は、カスタマーサポートセンターに寄せられるほか、当社のMR（Medical Representative：医薬情報担当者）やサービス員が直接お客様からお伺いしています。これらの窓口から入手した情報は品質保証部門が集約管理しています。

万が一、重大な品質問題が発生した場合には、品質保証部門が直ちに品質会議を招集し、お客様への告知や、行政への報告、点検・修理などに迅速に対応しています。

2007年度には、顧客満足をいっそう向上させるための新たな取り組みに着手しました。これは、品質保証部門内に専門部署を設置し、さまざまなお客様の声を集約して製品の開発や改良、サービスの向上に、いっそう効果的に反映させていくというものです。現在、その仕組みづくりを進めています。

注）製品の回収と改修について、詳しくは当社Webサイトの「製品に関する重要なお知らせ」をご覧ください。
URL. http://www.sysmex.co.jp/solution/index.html

Topics

病気や検査をテーマとした全12巻の絵本

シスメックスでは、病気や検査に関する教育・啓発のための絵本を作成、一般診療所などの医療機関に配布して、待合室などに設置していただいています。この絵本は、病気の特徴や検査・治療の方法について、わかりやすく紹介したもので、医学の知識がない方々や子供さんにも興味を持って読んでもらえるよう、物語形式としています。お読みいただいた方々からご好評をいただいています。

活力ある企業風土を醸成するために

シスメックスは、従業員一人ひとりが「納得・共感」して働くことができる魅力ある企業風土を目指しています。能力・成果主義に基づいた公正な処遇や、働きがいを持って高いパフォーマンスを発揮する人材の育成・強化を推進するとともに、従業員の健康管理や、女性や障害者が働きやすい職場環境の整備に取り組んでいます。

評価と処遇

公平かつ納得できる人事評価を目指して

シスメックスでは「能力・成果主義」を人事評価の基本方針とし、年功、学歴、性別などを評価の対象とせず、公平性を確保しています。

また、納得性を確保するために、本人とその上司が話し合いで目標を設定し、達成度や努力をした結果を評価するという「目標管理制度」を導入しています。

目標については、上司から全社目標や部門の目標について説明を受けたうえで従業員自身が設定し、上司と話し合いの結果決定します。また、評価についても、本人評価、上司評価、部門内評価を行うことで客観性・公平性を確保しています。

この制度により、上司と部下が仕事や専門性、技能などについて幅広い視野を持ち、能力開発の中長期的な視点に立って直接対話する機会を多く持てるようにしています。

特許実績報償制度の充実

シスメックスは、研究開発型企業として、従業員の発明・考案を促進するために、特許実績報償制度を運用しています。

報償金に上限は無く、当該製品の売上高などを調査したうえで、事業への貢献度に応じた金額を支払っています。この制度では、対象者が退職した場合でも継続して支払うこととしています。

教育研修制度

全社的な研修を統括する研修センター

シスメックスでは、2005年4月に、「研修センター」を人事部から独立させ、全社的な人材教育プログラムを充実させました。研修センターでは、全社研修として、階層別教育、グローバル化教育、選抜教育などを実施し、従業員の能力と働きがい向上に取り組んでいます。

階層別教育では、役職ごとに、それぞれの役割遂行およびスキルについて研修しています。

グローバル化教育の一つである「現地法人派遣研修」は、語学と実務の習得を目的に、主にアメリカやドイツの海外現地法人に半年間派遣するものです。部門推薦と公募によって派遣者を決定し、毎年5～6名がこの研修を受けています。また、シスメックスでも海外現地法人の従業員を受け入れて教育研修を実施しています。

リーダー育成のための選抜教育として、「シスメックスビジネススクール」を開講しています。受講者は、約半年間にわたって、経営戦略やマーケティング、ファイナンスなどの経営スキルを習得します。講義の最終回には、当社の経営層に対して経営課題を提言しています。

シスメックスビジネススクール

従業員の健康

心と体の健康を守るために

シスメックスは、正社員・嘱託・パートタイマーなど全従業員を対象に、年2回の定期健康診断を実施しています。また、過重労働の防止については、管理職に対する教育・指導や業務配分の見直しによって長時間労働を抑制しています。やむを得ない理由で一時的な長時間労働があった場合は、管理職による改善策を実施したうえで、保健師の面談や産業医の受診を行い、従業員の健康管理に努めています。

メンタル面においては、全従業員を対象に産業カウンセラー・保健師・産業医の面談を実施しています。シスメックスは従業員の身体と心、両面での健康を大切にしています。

多様性の確保

退職後の再雇用制度を制定

シスメックスは、2006年4月の高齢者雇用安定法の改正を受けて、同年同月に「定年退職後の再雇用制度」を制定しました。

この制度は、定年退職後の第2の人生を、働きがい・やりがいをもって当社で引き続き働きたいと考える従業員に対して、それまでに培ってきた専門性や経験などを活かして活躍していただくことを目的としています。2006年度は、希望者全員を再雇用しました。

障害者に配慮したバリアフリー環境の整備

当社のオフィス・工場は、車椅子に対応したスロープや、段差のない床、障害者専用駐車スペースなど障害者の働きやすい環境を整えています。また、障害者雇用についても、障害者向け合同企業説明会に参画するなど、積極的な雇用に取り組んでいます。

障害者に優しいスロープを設置（テクノセンター）

女性が活躍できる職場環境づくり

シスメックスでは、女性従業員比率が年々高まっています。そこで、女性が働きやすい環境を整えるために、仕事と家庭の両立を支援する制度の拡充に努めてきました。直近では2005年5月に「育児のための勤務時間変更制度」と「介護のための勤務時間変更制度」を導入しました。

従業員満足度調査でも、過去4年にわたって、女性が働きやすいと評価する従業員の数が年々増加しています。また、この調査では、多くの女性従業員が、多様な仕事観に対応するメリハリのある処遇を求めていることもわかりました。そこで現在、当社では働きやすさだけでなく、海外赴任や部長職への登用などのキャリアアップの機会を提供するなど、働きがいの向上にも取り組んでいます。

労働安全衛生

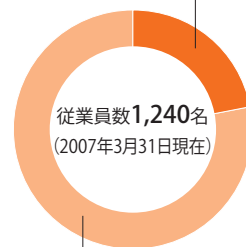
バイオハザード対策を徹底

シスメックスは、従業員の安全と健康を確保するために、安全衛生規程を定めて、事業所ごとに安全衛生管理委員会を設置しています。

安全衛生教育として、入社時に、事故時の応急措置や退避方法などを教える「入社時安全衛生教育」を実施し、また配属後には、職場ごとに、機械や原材料のうち危険性・有害性のあるものや安全装置の扱い方などを教える「職場安全衛生教育」を実施しています。

さらに、生物材料を扱う当社では、従業員のバイオハザード対策にも注力しています。2007年3月には、中央研究所において、事故を想定した緊急模擬訓練を実施しました。研究所員に対して、実験の際に起こりうる、化学薬品や器具などによる事故や、感染について、その対応策を教育しました。

研究所員に対する環境事故・緊急模擬訓練

従業員の男女内訳（単体）

バイオハザードエリア（テクノセンター）

取引先への
責任と行動

パートナーとして相互発展を目指して

シスメックスは、サプライヤー（調達先）や販売代理店に対して、パートナーとして相互に発展していける関係を目指しています。そのために、コンプライアンスを徹底し公平・公正な取引に努めるとともに、購買方針説明会や代理店会議などさまざまなコミュニケーションの機会を設けています。

サプライヤーとの良好な関係づくり

調達方針に基づいた公平・公正な取引

シスメックスは、国内約300社、海外約50社のサプライヤー（調達先）から原材料・部品を調達しています。サプライヤーとの信頼関係を維持・構築するために、当社は、調達方針に基づいて公正な取引に努めています。

調達方針

- 優れた製品の提供を通じた医療への貢献
- お取引先との信頼関係に基づく相互成長・発展
- より良いパートナーシップ
- 公正かつ透明性の高い購買取引
- 関係法令の遵守と機密保持
- 環境への配慮

サプライヤーとの対話

サプライヤーとより良いパートナーシップを築いていくためには、相互理解を深めるための直接対話が欠かせません。シスメックスは、毎年1回、国内サプライヤー約300社を対象とする「購買方針説明会」を開催し、当社の経営方針や調達方針、年度計画などを説明し、ご理解いただいています。

また、毎年15回程度開催する「技術セミナー」では、サプライヤーに独自の技術や製品をプレゼンテーションする機会を提供しており、技術の融合・相互発展を推進しています。

下請法の遵守を徹底

シスメックスは、下請法遵守の取り組みについて、ガイドブックを作成し、従業員への周知を徹底しています。また、コンプライアンス研修の一環として下請法教育や、社外専門家による講演会も実施しています。

販売代理店との良好な関係づくり

販売代理店との連携と対話

シスメックスは、パートナー企業との公正な取引に向けて、「優越的地位濫用の禁止」や「過剰な接待・贈物の禁止」などのルールをサプライヤーだけでなく販売代理店との関係においても遵守・徹底しています。

また当社は、代理店との連携を深めるために、さまざまな機会を設定し、情報提供と対話に努めています。地域ごとに開催するセミナーでは、当社からの製品説明を行う一方、代理店からは当社への要望をいただいています。「国内代理店会議」では、代理店に参加いただき、当社の販売方針などについて説明し、相互理解を図っています。2006年2月に開催した代理店会議には、約50社の代理店から約100名に参加していただきました。

Topics

世界各地の代理店との対話

シスメックスと同様、シスメックスヨーロッパでも販売代理店との対話を重視しています。

ヨーロッパ、中東、アフリカの国々の販売代理店に対し、代理店会議や臨床検査シンポジウム、製品説明会などさまざまなコミュニケーションの場を設定し、情報提供に努めています。

中欧代理店会議風景（ワルシャワ）

株主様への
責任と行動

シスメックスへの理解を深めていただくために

シスメックスは、株主・投資家の皆様に当社への理解を深めていただくために、株主通信やアニュアルレポートなどさまざまなIRツールを作成して積極的に情報を開示するとともに、株主総会や個人投資家説明会などでの直接対話に努めています。

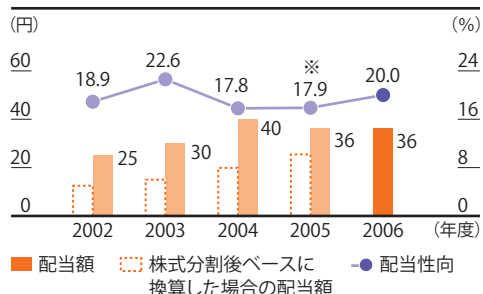
株主の皆様への利益還元

「安定配当」を基本方針として

株主の皆様への利益還元について、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏づけられた成果を配分するという基本方針のもと、連結での配当性向20%を目処に配当を行っていきます。

また、安定的な高成長を持続させるためには、積極的な投資が重要と考えており、ものづくり企業として、毎年、研究開発に重点投資しています。

配当性向（連結）／1株当たり配当金

※ 2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。

株主・投資家の皆様との対話

開かれた株主総会を目指して

シスメックスの株主総会は、できるだけ多くの株主の皆様に出席していただけるよう、集中日をさけて開催しています。

近年は、株主総会終了後に、当社の事業内容や戦略について理解を深めていただくために、年度のトピックスを紹介する映像を上映しています。また、懇談会を開催し、会場に製品を展示するとともに、当社の経営トップと直接対話いただく機会を設けています。

株主・投資家の皆様との直接対話を推進

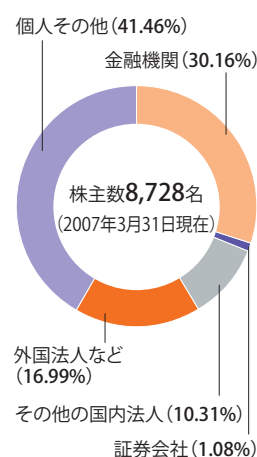
シスメックスは、株主通信「Be Fine!」やアニュアルレポート、ホームページなど各種IRツールを通じて、株主・投資家の皆様への情報発信を行うとともに、直接対話も多数実施しています。

個人投資家に対しては、個人投資家向け説明会で、機関投資家に対しては、決算説明会や直接インタビューなどの場で、経営トップが直接、業績や戦略を説明しています。外国人投資家に対しても、ヨーロッパとアメリカの各地を訪問して、説明会を開催しています。

また、検体検査に関する専門的な知識のない投資家の方々にも当社の技術をわかりやすくご紹介する「技術説明会」を開催し、当社の強みを理解していただく機会としています。

2006年度　株主・投資家の皆様との主な直接対話

2006年5月	2006年3月期　決算説明会（東京、大阪）
2006年6月	株主総会（神戸）
2006年6月	欧州説明会（ロンドン、エジンバラ、チューリッヒ、パリ）
2006年7月	米国説明会（ニューヨーク、ボストン、シカゴ）
2006年11月	2007年3月期中間　決算説明会（東京、大阪）
2006年12月	個人投資家向け会社説明会（東京、神戸）
2007年1月	技術説明会（東京）

株主の構成

技術説明会（東京）

Topics

経営トップの積極的な関与が高い評価を獲得

2006年、経営トップのIR活動への積極的な関与などが評価され、日本インベスター・リレーションズ協議会が主催する「IR優良企業賞」を受賞しました。

また、大和インベスター・リレーションズ株式会社主催の「2006年インターネットIR・ベスト企業賞」も受賞しました。

企業市民
としての
責任と行動

シスメックスならではの社会貢献活動

医療にたずさわる企業として、神戸に根ざす企業として、またグローバルに活動する企業として、シスメックスは、医療、科学技術、文化・スポーツなどさまざまな分野で社会貢献活動に取り組んでいます。

医療分野

根拠に基づいた検査の確立を目指して

立証検査医学講座

シスメックスは、2004年10月に開設した神戸大学大学院医学系研究科の「立証検査医学講座」に資金協力しています。同講座は、科学的根拠に基づいた検査診断法の確立を目指して、臨床検査の有用性の実証や、新しい検査法の開拓に取り組んでいます。

同講座は、2006年度には、これまでの研究成果について、国際動脈硬化学会、日本内科学会総会などで発表を行いました。

科学技術分野

電子計測技術の発展を支援

シスメックスは、財団法人　中谷電子計測技術振興財団を通じて、電子計測技術を対象とした研究助成を行っています。同財団は1984年、わが国の経済・社会の発展と国民生活の向上を目的として、当社の創業者・初代社長の故中谷太郎および当社などの基金拠出によって設立されました。

2006年度は、13件に対して、合計約2,000万円の研究助成を行いました。これまでの助成の累計は232件となっています。

第23回 研究助成金贈呈式（2007年2月）

文化・スポーツ分野

スポーツを栄養学の観点から科学する

シスメックスは2001年から、NPO法人　神戸アスリートタウンクラブと協賛で、スポーツ科学や栄養学の専門家による講演会「スポーツサイエンスセミナー」を開催しています。

2007年1月には第5回目のセミナーを開催し、下記の演題で、300名を超える聴講者に参加いただきました。また、ソウル五輪金メダリストの鈴木大地さんを招いて特別講演を行いました。

2006年度スポーツサイエンスセミナーの演題

1. 子どもの体力の現状とスポーツ活動
2. コンディショニングのスポーツ栄養学
3. 選手能力を最大限に発揮させるために（特別講演）
4. 人づくりにスポーツが果たすべき役割（討論）

神戸ゆかりの西村功画伯の作品を展示

シスメックスは、神戸の文化遺産を次世代へ継承することで心豊かな地域づくりに貢献しています。

当社は、神戸市文化賞を受賞するなど「もっとも神戸らしい画家」として多くの人に愛された西村功画伯の主要な作品をコレクションしています。

2006年11月にはこれらの作品を一般公開し、絵画ファンや多くの地元市民にご覧いただきました。

西村画伯のコレクションを一般公開

地域社会

神戸医療産業都市構想への参画

シスメックスは、産官学が協力して神戸市への医療関連産業の集積を図る「神戸医療産業都市構想」に参画しています。

2006年度には、この構想の一翼を担う先端医療振興財団に対して資金提供を行いました。同財団はこの資金をもとに2007年1月、「シスメックス浅野研究室」を開設しました。

当社と同研究室は、2007年から2011年まで、血液学の第一人者である浅野茂孝教授の指導のもと、下記の研究テーマで共同研究を進め、細胞療法の有効性を高める新たな診断技術の早期事業化を目指します。

シスメックス浅野研究室の共同研究テーマ

1. 細胞療法の効果と安全性を向上させる診断技術の開発
2. 自己免疫疾患の病態を的確に把握する診断技術の開発

地域の子供たちに体験学習の場を提供

兵庫県では、全ての公立中学生を対象に、子供たちの生きる力を育成することを目的とした体験学習「トライやる・ウィーク」が実施されています。

シスメックスは、1998年から毎年約1週間、機器生産拠点である加古川工場に地元中学生を受け入れています。

2006年度は、陵南中学校の2名の生徒を受け入れ、パソコン入力や資材の受け入れ、機器の組み立てなどを体験してもらいました。体験学習終了後、お二人からはお礼とともに、「仕事の大切さや楽しさを学んだ」、「よい勉強になったし、楽しかった」などの感想をいただきました。

「トライやる・ウィーク」で体験学習に取り組む中学生たち

パンダのサポーターとして

シスメックスは、「動物サポーター制度」を通じて、地元の神戸市立王子動物園を支援しています。この制度は、企業や個人が餌代や動物舎などの設備改善費用を寄付することで資金面から動物園を支えるものです。

当社は特に人気の高いジャイアントパンダの「タンタン」（メス11歳）のサポーターです。

パンダ館前の当社看板

Topics

病気と闘う人を応援するために

シスメックスアメリカの活動

シスメックスアメリカは、人々を心臓病と脳卒中から救うための基金調達イベント「ハートウォーク」（米国心臓協会主催）に参加しています。

このイベントは、病気を患っている人や病気から生還した人たちが、同じ病気で苦しむ人たちを勇気づけるために、スローガンをプリントした帽子をかぶって行進するというイベントです。

同社は2006年度、このイベントに対して2,000ドルを寄付しました。

「ハートウォーク」ロゴマーク

シスメックスヨーロッパの活動

HIV／エイズの蔓延が、世界各地で大きな社会問題になっています。なかでも南部アフリカ地域は特に深刻であり、世界のHIV感染者のほぼ3分の2にあたる約2,500万人がこの地域に集中していると言われています。

シスメックスはHIV／エイズと闘う医療従事者の活動を支援しています。2006年11月には、シスメックスヨーロッパが、南部アフリカ地域の5つの病院・診療所に対して、HIV／エイズ検査に役立てていただくために当社製品を寄贈しました。

南部アフリカ地域の病院への製品寄贈式

地球環境との調和を目指して

シスメックスは、地球環境保全を経営の重要課題の一つと位置づけています。シスメックス環境方針に基づいて、事業活動の全ての領域で環境保全活動に取り組み、企業活動と地球環境の調和を追求しています。

環境方針

ISO14001の登録認証書

シスメックス環境方針

【基本理念】

シスメックスは、臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウエアなどの開発・製造・販売・輸出入を行っています。

豊かな健康社会づくりを担っていく企業をめざす当社にとって、環境保全への社会的責任を果たしていくことを経営の重要課題のひとつとして位置づけています。

事業活動にかかわる環境法や環境上の規範を遵守し、環境に配慮して、未来の豊かな健康社会づくりに向け自主的且つ継続的に環境保全に取り組んでまいります。

【行動指針】

1．廃棄物の減量化、リサイクル化を積極的に推進します。

2．省資源・省エネルギーに積極的に取り組みます。

3．全ての事業活動において環境負荷の低減に配慮します。

4．環境保全に関する法規制、条例、地域との取り決めおよび自主基準を遵守し社会的責任を果たします。

5．環境目的・目標を定めて、継続的改善に積極的に取り組みます。

6．環境への取り組み情報を適切に公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。

この環境方針は、シスメックスの全従業員と関連する人々に教育、啓蒙活動を行い、周知徹底を図ります。

この環境方針は、一般の人の入手を可能とするため、一般公開いたします。

注）シスメックス環境方針は2000年3月に制定しました。その後、本社地区の事業所の環境保全活動を統合して推進するにあたり、2004年10月に改定しました。

事業活動にともなう環境負荷

シスメックスは、効率的な環境保全活動を進めるために、国内主要6拠点における、資源の投入量と環境負荷物質の排出量を定量的に把握しています。

INPUT

区分	項目	量
総エネルギー	電力	14,639千kWh
	燃料（都市ガス）	294.8千Nm^3
	燃料（LPG）	56.9t
	燃料（社用車ガソリン）	50.1kl
	燃料（灯油）	47.4kl
総物質投入量	OA紙（オフィスで使用）	44.1t
	PRTR※1管理対象化学物質取扱量	32.7t
水資源	上水	105,448m^3

本　社 | テクノセンター | ソリューションセンター | 加古川工場 | 西神工場 | 小野工場

OUTPUT

項目	量
温室効果ガス排出量	9,143t-CO_2
化学物質排出量（PRTR管理対象化学物質排出量・移動量）	2.8t
廃棄物量	194.1t
リサイクル量	396.7t
廃棄物等総排出量※2	590.8t
排水量	72,540m^3

注1） 対象事業所：環境負荷データはシスメックス（株）およびシスメックス国際試薬（株）の6つの事業所を対象としています。
シスメックス（株）･･･本社（神戸市）、テクノセンター（神戸市）、ソリューションセンター（神戸市）、加古川工場（兵庫県加古川市）
シスメックス国際試薬（株）･･･西神工場（神戸市）、小野工場（兵庫県小野市）

注2） 対象期間：2006年4月1日～2007年3月31日

※1 PRTR：Pollutant Release and Transfer Registerの略。有害性のある化学物質が、どのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、廃棄物に含まれて構外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する制度。化学物質把握管理促進法で定められた第一種指定化学物質354物質が対象。

※2 廃棄物等総排出量：感染性廃棄物、廃棄物、リサイクル量の合計。事業所外へ持ち出した時点での重量。また、廃棄物量のうち、感染性廃棄物は7.7トン。

環境マネジメント

シスメックスは、検体検査分野における「環境先進企業」を目指して、環境配慮を全社事業活動の中に盛り込んでいます。2006年度には、グループ全体での環境保全活動の実効性を高めるために、環境マネジメント体制を強化しました。

環境マネジメント体制

グループ環境管理委員会を設置

シスメックスの環境マネジメント(EMS)体制は、従来、環境管理最高責任者(管理本部担当執行役員)のもと、各事業拠点の総務部門で構成された環境管理委員会が中心となり、主に事業拠点における環境保全を推進するというものでした。

2006年度には、この体制を改め、グループ[※1]全体での環境保全活動を統括する「グループ環境管理委員会」を設置しました。同委員会は、開発・調達・生産・販売サービスなどの事業機能別に環境保全活動を推進することで活動の実効性を高めることを目的に、執行役員など各機能を代表するメンバーで構成されています。このグループ環境管理委員会が、全社の方針・計画の策定や計画の進捗管理、実績評価、ISO認証監査への対応などにあたり、グループ全体の活動を統括しています。

※1 グループ:「地球環境への責任と行動」における「グループ」とは、シスメックス(株)とシスメックス国際試薬(株)からなるシスメックスグループを指します。

機能別に環境保全活動を推進する分科会

グループ全体の環境保全活動を事業機能ごとに推進していくために、グループ環境管理委員会の下部組織として、「製品開発」「サプライチェーン」「事業所」という3つの分科会を設置しました。

各分科会は全社の計画を各部門に詳細展開し、進捗を管理して、結果を委員会に報告しています。

環境マネジメント体制

ISO14001認証取得状況

国内主要6拠点が認証取得を完了

シスメックスでは、2000年の加古川工場をはじめとして、環境に関する国際的な標準規格であるISO14001の認証取得を進めてきました。

2007年6月にはシスメックス国際試薬(株)西神工場が認証を取得し、これによって、国内主要6拠点(本社、テクノセンター、ソリューションセンター、加古川工場、西神工場、小野工場)が全て認証を取得しました。今後も、国内外のグループ会社での認証取得を推進していきます。

会社名	事業所	取得年
シスメックス(株)	加古川工場	2000年4月
	テクノセンター	2002年2月
	本社	2002年2月
	ソリューションセンター	2005年11月
シスメックス国際試薬(株)	小野工場	2001年3月
	西神工場	2007年6月
シスメックス物流(株)		2001年3月
シスメックスメディカ(株)		2001年3月
SYSMEX EUROPE GMBH	Neumünster factory(ドイツ)	1999年11月

環境監査

環境監査で環境汚染防止を徹底

シスメックスでは、ISO14001に則って、外部認証機関による監査を定期的に受けています。また、年1回、内部環境監査も実施しています。

内部環境監査では、特に工場の廃液処理設備や分別廃棄の状況を重点的に監査しています。当社の内部監査員は、90名を超えており、今後も事業拡大に対応できるようスキルアップを図っていきます。

外部環境監査(西神工場)

環境活動計画と実績

2006年度、シスメックスは新たに設置したグループ環境管理委員会のもと、環境活動計画を策定し、製品開発、生産、調達、物流、販売・サービスなどの機能別に取り組みテーマを設定して、負荷の把握と低減に努めました。

2006年度環境活動計画と実績

機能	取り組みテーマ	2006年度活動実績
全社EMS	体制の再整備	・シスメックス（株）およびシスメックス国際試薬（株）のグループで環境活動を統括推進。 ・グループで年度環境活動計画を策定、3つの分科会（製品開発・サプライチェーン・事業所）を中心に活動を実施。
	ISO認証取得の推進	・シスメックス国際試薬（株）西神工場の認証取得に向けた活動を展開。2007年6月取得。
製品開発	RoHS指令※2への取り組み	・RoHS指令対応に関する技術規格を制定。 ・RoHS指令対応フローの運用方法について、開発技術者・調達担当者へ教育を実施。
	リサイクル	・WEEE指令※3への対応として、制定した分離処理マニュアルにもとづき、商品の仕入れ先に対して調査を継続実施。 ・機器新製品について、包装材・緩衝材に発泡プラスチック材、木材を使用しない設計に向け、社内規格を改定、実施。
	省エネルギー・省資源化	・製品の消費電力について、2006年度発売の機器3製品が、2004年度比で30%の削減を達成。 ・製品の軽量化について、2006年度発売の機器3製品が、2004年度比で20%の重量削減を達成。装置から排出される廃液量について、2006年度発売の機器3製品が、2004年度比で18%の削減を達成。
生産	工場ゼロエミッションの推進	・3工場（加古川工場、西神工場、小野工場）のゼロエミッション実行計画を策定。 ・3工場で全ての廃棄物項目を洗い出し、現状把握を実施。
	化学物質管理の徹底	・工場での感染性廃棄物の削減について、処理設備・廃棄方法の見直しを完了。
調達	グリーン調達の推進	・グリーン調達基準を策定。サプライヤーに対して、環境規制調査に関する説明会を開催。 ・中国版RoHS※4への対応を完了。
物流	物流段階のCO_2削減	・物流に関するCO_2排出状況について現状把握を実施中。 ・CNG（天然ガス）車を導入。
販売・サービス	お客様先での廃棄物削減	・国内支店・営業所における廃棄物処理の現状調査を実施。
環境コミュニケーション	情報発信	・2007年度CSR報告書発行に向けた取り組みを実施。

2006年度を振り返って

機能別の活動を推進する仕組みを整備

2006年度は、環境管理委員会の体制を強化し、環境保全活動を中期的に推進するための仕組みを整えました。開発、調達、生産、販売・サービスの活動では、計画の初年度として、各機能で環境に関する規格や業務基準の見直し・整備が進展しました。

環境負荷データ収集においては、主要な事業拠点の把握は完了しており、今後は、データ範囲の拡大や精度向上を図り、グループとしての環境負荷低減に活かしていきます。

環境関連法規制の違反はゼロ

2006年度も、前年度に引き続き法規制の違反はありませんでした。

今後も継続して違反ゼロを目指します。

※2 RoHS指令：EUで販売される電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令。重金属（鉛、カドミウム、水銀、六価クロム）と、ダイオキシン類の発生原因となる特定臭素系難燃剤（PBB、PBDE）の使用全廃を要求したもの。

※3 WEEE指令：廃電気・電子機器の回収と3Rを進めるために、EUが制定し、2003年2月に発効した指令。電気・電子機器廃棄物を対象に、設計、分別回収、リサイクルの各段階で、加盟国、販売業者、生産者などに対して義務を課すもの。

※4 中国版RoHS：電子情報製品汚染防止管理弁法。規制対象物質の表示義務および使用禁止を要求。

環境に配慮した製品の開発

シスメックスは、製品の品質や性能を向上させることと同様に、地球環境へ配慮することも製品価値の一つとして認識し、製品設計を進めています。2006年度は、製品の省エネルギー化・省資源化の推進、「グリーン調達基準」の策定、RoHS指令への対応などを中心に取り組みました。

環境配慮設計

製品の省エネルギー化を継続して推進

シスメックスは、臨床検査装置の省エネルギー化に取り組んでいます。

80年代当時、血球計数装置の高機能化・大型化にともなって、その消費電力もまた増大する傾向にありました。90年代に入り、製品開発において省電力設計に取り組み、現在では、当社の製品は業界で最小レベルの消費電力量を達成しています。

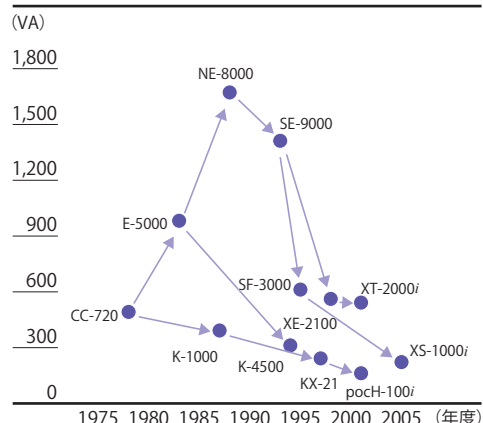
2006年度に発売した製品の平均使用電力は、2004年度比で30%削減し、年度目標を達成しました。

当社歴代の血球計数装置における消費電力の比較

注）CC-720、E-5000等は製品の名称を示し、矢印は製品の性能や測定原理の分化を示しています。

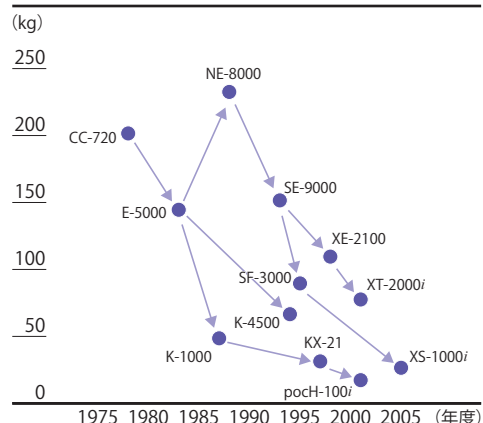
製品の小型化・軽量化を継続して推進

シスメックスは、製品の品質や性能を向上させることはもちろん、小型化と軽量化にも取り組み、省資源化を進めています。

例えば、2006年度に発売した血球計数装置を1990年当時の当社製品と比較すると、重量・体積で約4分の1以下となっています。また、2006年度に発売した製品の平均重量は2004年度比で20%削減しており、年度目標を達成しました。

機器製品の梱包材料については、2006年度の新製品から、発泡プラスチック材や木材の使用を全面中止して、リサイクル可能な材料に切替えています。

当社歴代の血球計数装置における重量の比較

注）CC-720、E-5000等は製品の名称を示し、矢印は製品の性能や測定原理の分化を示しています。

環境に優しい試薬製品の開発

シスメックスでは、臨床検査に使用される試薬製品の無害化・無毒化に継続して取り組んでいます。これまでに、人体に有毒なシアンを含まない「脱シアン」試薬の開発（1989年）や琵琶湖条例※に基づく「脱ホウ酸」試薬の開発（1993年）などに成功しています。

また、病院や診療所、検査センターなど、当社の製品を使用していただいているお客様先で、廃棄物削減や分別回収などが進むように、試薬製品の包装容器や梱包材の減量化と再生材料の使用に取り組んでいます。

※ 琵琶湖条例：1980年施行。高度成長にともなって進んだ水質汚濁や富栄養化を防止するために滋賀県が制定した工業排水と家庭用排水を規制する条例。

グリーン調達

グリーン調達基準を策定

2007年4月、シスメックスは、環境に配慮した製品づくりをさらに推進するため、調達活動における「グリーン調達基準」を策定しました。製品に使用する化学物質の制限やサプライヤーとの取引基準などを明文化しました。

これによってシスメックスは、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達をサプライヤーと協力しながら推進していく姿勢を明確にしました。

グリーン調達基準（抜粋）

1. 目的

本基準は、シスメックスグループが、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に積極的なサプライヤーと共に持続可能な社会の発展を目指すことを目的として制定する。

2. グリーン調達の方針

調達活動における当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤーも含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するためにグリーン調達を実施する。

（1）環境負荷の少ない原材料、部品の調達を推進する。

（2）環境保全に積極的なサプライヤーとの取引を拡大する。

サプライヤーへの説明会を開催

グリーン調達基準の制定に先立って、2006年9月には、サプライヤーに対して「環境規制調査に関する説明会」を開催しました。

欧州・中国の環境規制の状況や当社の対応方法などを説明し、ご理解いただくとともに、約2万点におよぶ当社製品の部品・構成品に関する環境情報を共有していただけるようお願いしました。また、2007年2月開催の購買方針説明会でも、当社の調達活動における環境配慮の方針を説明しました。

サプライヤーへの環境規制調査説明会を開催

購買方針説明会で環境配慮の方針を説明

RoHS指令適用に先立って

シスメックスでは、環境方針に基づいて、製品に含まれる有害物質の削減に取り組んでいます。

2006年7月に施行されたEU（欧州連合）のRoHS指令（電気電子機器に含まれる有害化学物質の使用禁止を定めた指令）は、人体などに悪影響を与える可能性のある鉛や水銀など6物質の使用を禁止しています（現時点では、医療機器は対象外）。2007年3月には、医療機器も対象となる中国版RoHSが施行されました。

こうした状況にあって、シスメックスでは、RoHS指令の医療機器への適用に先がけて、2006年度までに、この規制に関連する部品・構成品の洗い出しを完了しました。また、開発・調達担当者に対して「RoHS指令対応フロー」の運用を徹底するための教育を実施しました。

さらに、製品設計においては、環境影響物質に関する社内規格を策定し、この規格に基づいたRoHS適合品の採用と使用を進めています。

2007年度の全社計画でも引き続きRoHS指令への対応を重点課題とし、継続して取り組みます。

生産工場・事業所における環境配慮

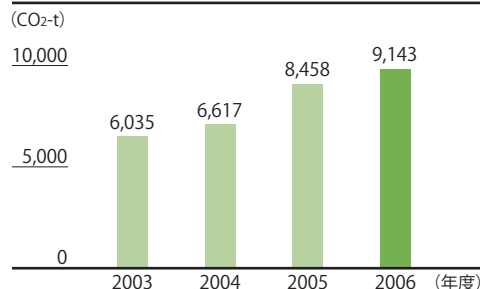
シスメックスグループの国内主要6拠点 ── 3つの国内生産拠点（加古川工場・西神工場・小野工場）と3つの非生産拠点（本社・テクノセンター・ソリューションセンター） ── では、地球温暖化防止、廃棄物排出量の削減やリサイクルなどに継続的に取り組んでいます。

地球温暖化防止

電力使用量の削減に向けて

2006年度の国内主要6拠点におけるCO_2排出量は、前年度に比べ8.1％増加しました。生産量の拡大や、事業所数と従業員数の増加によって、この6拠点のCO_2排出量の約9割を占める電力使用量が増加したことが主な要因です。

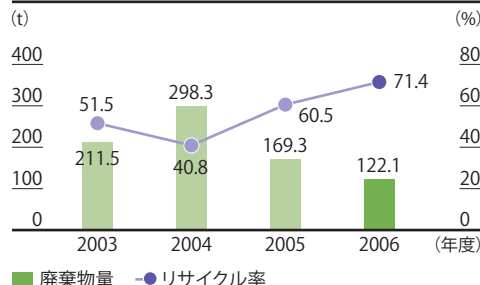
今後は、工場での生産効率の向上や全拠点でのエアコン温度管理や消灯推進などに取り組むとともに、太陽光発電などの省エネルギー設備の導入についても検討していきます。

CO_2排出量（6拠点合計）

廃棄物削減と資源の有効活用

3工場のゼロエミッションへの挑戦

2006年度、加古川工場、西神工場、小野工場が、2009年の達成を目指してゼロエミッション活動を開始しました。まずは、廃棄物の種類を全て洗い出し、各工場の現状を調査したうえで、3拠点合計での削減目標を設定しました。

今後は、分別回収方法の確立やリサイクルルートの開拓を進めていきます。

廃棄物量とリサイクル率（3工場合計）

廃棄物処理の外部委託先との連携

廃棄物の外部委託については、定められたルールに従って適正に処理されているかどうかを、現地を訪問して確認しています。訪問時には、委託先から廃棄物削減のアドバイスもいただいています。

廃棄物委託処理業者を訪問

製品開発拠点での分別回収の徹底

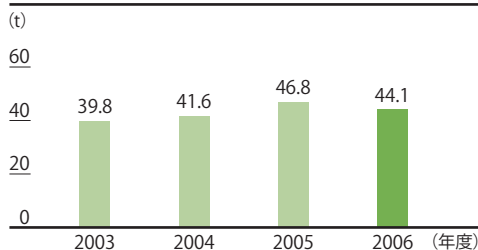
開発現場では、金属、プラスチック、ガラス、ゴムなど、多種多様な廃棄物が頻繁に発生します。これらのリサイクルを推進するために、分別回収箱を数多く設置し、分別廃棄を徹底しています。

分別回収箱（テクノセンター）

OA紙の使用削減

2006年度のOA紙の使用量は、従業員数が増加したものの、会議のペーパーレス化や両面使用を推進したことによって、前年度から5.8%削減できました。

また、各拠点にOA紙回収ボックスを設置して、リサイクルにも取り組んでいます。

OA紙使用量（6拠点合計）

OA紙等リサイクルボックス
（テクノセンター）

化学物質の管理

管理体制の強化とリスク低減

シスメックスでは、化学物質に関するリスクの低減に努めています。2006年度は、テクノセンターを中心に「感染性廃棄物の削減」に重点を置いて取り組みました。その結果、前年度の9.2トンから7.7トンに約16%削減することができました。

小野工場においては、PRTR管理対象化学物質を削減するために、生産効率の向上や設備導入に向けた取り組みが進展しました。また、加古川工場では、化学物質漏洩を想定した緊急時対応訓練を実施しました。

環境コミュニケーション・環境美化活動

環境保全研究会に参加（加古川工場）

2006年7月、加古川工場は、兵庫県加古川市主催の環境保全研究会に参加しました。地域住民や近隣工場の皆様に対して、当社の環境に対する考え方や活動についてご理解いただくために、「シスメックスの環境への取り組み」と題して発表しました。

今後も、このような会に積極的に参加して、地域の皆様との環境コミュニケーションを深めていきます。

市民の皆様への発表（加古川工場）

工場周辺の清掃（シスメックスメディカ（株））

シスメックスメディカ（株）（兵庫県姫路市）では、6S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・士気）の一つとして、毎月1回、従業員全員による清掃活動が定着しています。

この清掃は、工場内にとどまらず、工場周辺の通学道路や側溝などにもおよび、地域とのコミュニケーションの活性化にも役立っています。

工場周辺の清掃（シスメックスメディカ（株））